

校訓 勉学・勤労・規律
 平成30年03月12日(月)
 No.13

すみよし

文責 都留第一中学校長 梶原勝由

三年生を送る会 ～ テーマは“輝”

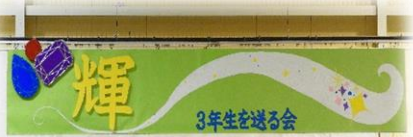
今まで3年生が中心に運営していた生徒会。今回初めて1・2年生が中心になって運営した3年生を送る会。取組期間中は部活動を返上して6つの部門に分かれて行いました。

3月8日(木)、吹奏楽部の演奏で3年生が入場。スライド上映では入学当初の写真もあり、あどけない初々しい表情も垣間見られました。



1年生の発表は、“ありがとう”という文字の一文一文字メッセージと学年合唱「地球星歌」。2年生の発表は有志によるソーラン節と学年合唱「輝のために」。そして、新応援団によるエール。1・2年生とも、今まで都留一中をリードした3年生への感謝の気持ちとこれから都留一中を担う自覚が感じられました。4月から楽しみになりました。

3年生は、学年合唱「群青」と「都留一中校歌」でした。まさしく、手本となる合唱であったとともに誇りを感じました。そして、3年生は都留一中で過ごした3年間を思い出しながら、成長の跡を確かめたことと思います。参観くださいました、79名の保護者の皆さん、ありがとうございました。



第71回卒業証書授与式前日 ～ 胸を張って旅立ち、大きく羽ばたけ

いよいよ明日は第71回卒業証書授与式。3年生は泣いても笑ってもあと1日。思い出いっぱいの都留第一中学校から胸を張って旅立ち、目指す目標に向かって邁進してください。そして、成長を見守り見届けた、お父さんやお母さん、家族への感謝を忘れずに巣立って行ってください。



雪降る日はいつも重機で除雪

今年の冬は真冬が続く、ときには降雪・積雪があり、時間遅れの措置を講じた日もありました。時間遅れの措置を講じた日は、生徒たちの安全確保を第1に、前庭や通学路の雪かきを教職員全員で行いました。残念ながら、本校には除雪機がありませんので、全て人力で行います。



ところが今年の除雪に重機が登場しました。登場と云っても、保護者の方の所有物で、厚意・ボランティアで行っていただきました。その結果、除雪が早だけでなく、隅々まできれいになり、生徒たちは雪の中に足を踏み入れることなく登下校できました。



井上芳寛・玲子様、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。

書き初め大会入賞者

- | | | | | | | | |
|------|----|-------|-------|------|-------|------|-------|
| 県特選 | 1年 | 淡野友梨愛 | 川邊瑛怜那 | 小宮凜子 | 高尾紗優奈 | | |
| | 2年 | 橋本かな | 平井羽美 | | | | |
| | 3年 | 富永菜々花 | 平井彩鈴 | | | | |
| 地区特選 | 1年 | 藤本遼雅 | 布施ふうな | 松嶋修斗 | 尾曲未悠 | 田代真菜 | 鈴木あかり |
| | | 高部彩音 | 滝口寧音 | 名取蒼依 | 武藤海吏 | 小林蓮華 | |
| | 2年 | 大津彩花 | 小林沙妃 | 宮澤沙奈 | 鈴木夢叶 | 藤本柚花 | 大津紗花 |
| | | 天野凜海 | 杉本華恋 | | | | |
| | 3年 | 武藤歩花 | 山口穂乃佳 | 宮澤繭里 | 横田三奈 | 黒部隼矢 | 日向遼羽 |
| | | 平井瑠夏 | 程原妃奈乃 | | | | |



私の好きな一冊 今月号は三浦淳先生

「これから戦場に向かいます」

山本美香著

2012年8月20日、都留市出身のジャーナリスト山本美香さんがシリアで取材中に銃弾に倒れたという悲報を聞き、驚き、悲しんだことを今でも覚えている。あれから5年。

今回出版された「これから戦場に向かいます」は、山本さんの撮った写真と山本さん自身の言葉で書かれた写真絵本で、一昨年7月に出版された。誰にでも読みやすく、1ページ1ページ、一枚一枚の写真が鮮明に、何かを語りかけてくる。戦場のすさまじい写真も含まれているが、多くは、戦場に暮らす女性や子どもたち。戦時下で暮らす市民に焦点を当てるといふ山本さんの取材の考え方が色濃く見られる。後半には、取材中に隣の部屋を爆撃され、寝食を共にしていたジャーナリストが命を落とす場面が描かれている。「ちくしょう」という心の底からの叫びがなんとも印象的である。そして今も残る山本さんのデスクには「外国人ジャーナリストがいることで最悪の事態をふせぐことができる＝抑止力」と書かれた付箋が貼ってある。取材に行く度に、自己の使命を確認したのであろう。

今年で戦後73年。北朝鮮の問題をはじめ、世界は多くの問題、そして多くの紛争を抱えている。日本に住んでいると感じないが、今も戦闘を続けている人々がいる。世界の平和のために何をしなければならぬか、いろいろと考えさせてくれる本である。

なお、山本さんのご両親から寄贈いただいた同誌が本校図書室にもあるので是非読んでほしい。
 (文責:三浦 淳)